



特集

言葉による 見方・考え方を 働かせる

新しい学習指導要領の完全実施から二年が経ちました。今号の特集では、
興水かおり先生（元玉川大学客員教授）のお話、青山由紀先生（筑波大学附属小学校教諭）の授業をとおして、
あらためて、子どもたちが「言葉による見方・考え方を働かせる」ための手立てを探っていきます。

「言葉による見方・考え方を働かせる」って？

興水かおり

学習指導要領解説 国語編には「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」と説明されています。ちよっと、この一文を（言葉による見方・考え方を働かせて）捉え直してみよう。

いっぱいに包まれています。」（76ページ5行目）という一文があります。対象は、「ゆみ子の家」です。左の図のように、ここで選ばれている言葉の意味や働き、使い方に着目して、なぜこのような言葉を使ったのか問い直してみるという学習活動が「言葉による見方・考え方を働かせる」こととなります。

「い直し」が、児童の「言葉への自覚を促す」ということにつながると考えています。「言葉と言葉との関係」とは、発達段階に応じて、語と語のつながり、文と文のつながり、文章と文章のつながりと発展していくものです。指導者自身が、一つ一つの言葉の意味や働きや使い方を的確に捉える力を鍛えることが大切ですね。

誰が……児童が

どこで（どの場面）……学習の中で（家庭学習や授業中）

何を……対象と言葉、言葉と言葉との関係をどのように……言葉の意味、働き、使い方等に着目して、捉えたり問い直したりして

どうする……言葉への自覚（言葉はおもしろいな・役立ちな・使ってみたいな）を高める

いちばんわかりにくいのはどこでしょう。

「何を・どのよう」に「で」でしょうか？

具体的な例で考えてみましょう。「一つの花」（四上）に、「でも、今、ゆみ子のとんとんぶぎの小さな家は、コスモスの花で

接続詞が使われている。ということは、前の内容とは逆の展開があるのだな。

戦後間もない粗末な家、決して裕福とはいえない暮らしぶり。

でも、今、ゆみ子のとんとんぶぎの小さな家は、

コスモスの花でいっぱいに包まれています。

あつ、あの時もコスモスだった。

一輪のコスモスだったはず。

なぜ、「咲いています」ではなく「包まれています」なのだろうか？ もしかしたら……



興水かおり

広島県生まれ。元玉川大学客員教授。23年の教員生活の後、港区教育委員会指導主事、東京都教育庁主任指導主事、小学校校長、玉川大学客員教授等を務める。光村図書小学校『国語』教科書編集委員。